

千葉大学医学部附属病院で腹腔鏡またはロボット支援下子宮全摘術をされた患者の皆様、ご家族の皆様へ

2026年3月7日

産科・婦人科

現在産科・婦人科では、当院でAI手術支援システム Survis-Hys[®]をもちいた腹腔鏡下またはロボット支援下子宮全摘術を行った患者様に対し、AI手術支援システム Survis-Hys[®]の有用性を検討する研究を行っており、以下に示す方の診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2025年3月1日～2025年5月31日の間に当院でAI手術支援システム Survis-Hys[®]を使用した、腹腔鏡下またはロボット支援下子宮全摘術をうけた方。

1. 研究課題名

「腹腔鏡下子宮全摘、ロボット支援下子宮全摘術における、AI手術支援システム Survis-Hys[®]の使用感に関する後方視的検討及びアンケート調査」

2. 研究期間

2026年承認日～2028年3月31日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

尿管損傷予防の新しい手段としてAI手術支援システム Survis-Hys[®]が開発され、2024年8月に薬事承認を取得しています。AI手術支援システム Survis-Hys[®]は手術用システムや手術用ロボットと接続することで、骨盤内の中の臓器の一部を手術中に検出し、モニター上に色付けして表示するシステムです。Survis-Hys[®]を使用することにより、医師は手術中に従来の内視鏡モニターと合わせて、損傷リスクの高い臓器の認識力のサポー

トを受けながら手術を行えるようになり、鏡視下手術での尿管や膀胱損傷を回避できる可能性があります。

本研究は、AI手術支援システム Survis-Hys[®]を使用した症例の動画解析を行い、有用性を検討し、今後に役立てることが目的です。

4. 研究に用いる情報の種類

診療録より以下の情報を収集します。

- 1) 年齢、体格指数(Body Mass Index)、妊娠分娩歴
- 2) 手術成績：術式、手術時間、出血量、術後入院期間、手術後の合併症

5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：産科・婦人科 教授 甲賀 かをり

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないようにして、千葉大学医学部附属病院産科・婦人科において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究に関する相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

産科・婦人科 医員 百武 沙綾

043(222)7171 内線6893